

**テーマ ① 道の駅**

留萌の食は、自信を持ってお客様に自慢できる。観光地と留萌の食を繋げる役割に期待する。

ホームページでの掲示板やご意見箱など、市民の意見を聞く多様なツールを検討してほしい。

農家からの直販をするのであれば、高齢化で農産物を道の駅まで運ぶのは大変ではないか。

留萌らしいものがあるのか。海産物は、市販より安いなどの市場のようなものがあるとよい。

明確なビジョンが見えない。また、道の駅の完成した姿が見えない。

夏も冬も活用できる利活用計画を考えてほしい。

皆さまからいただいたご意見の一部をご紹介します

**テーマ ② 子育て支援**

なぜ保育士が不足しているのか原因をしっかりと受け止め、対策してほしい。大事な子どもを預かる保育の現場は、想像以上に厳しい環境である。

保育士のやりがいプラス労働条件の改善が必要ではないか。

建設を予定している屋内遊戯施設に子育て支援センターのような機能を併設し、子育てを相談できる場を設けてはどうか。

留萌高校では、保育関係の進路を積極的に紹介している。今年は、保育士希望が10人いる。

中学校では、文化系のクラブの先生がいないため、部活の継続が難しい。

留萌市で赤ちゃんが誕生したときには、お祝い品などのプレゼントはあるのか。

留萌市議会だより

# 議会です こんにちは

第135号

令和2年2月1日発行

●留萌市議会事務局  
TEL42-1907 FAX43-6700  
URL : <http://www.e-rumoi.jp/gikai/index.html>  
E-mail : [rumoishigikai@basil.ocn.ne.jp](mailto:rumoishigikai@basil.ocn.ne.jp)

留萌市議会  検索

※左記のQRコードからも留萌市議会のホームページにアクセスできます。

- 主な内容**
- P 6～P 7 ・市民と議会の意見交換会を開催しました。
  - P 8 ・行政視察を行いました！
  - P 9 ・第1・第2常任委員会からの報告 ほか
  - P10～P12 ・第4回定例会一般質問と答弁
  - P13 ・こんなことが決まりました  
・各組合議会からの報告 ほか

## 市民と議会の 意見交換会を 開催しました。



令和元年11月20日  
るしんふれ愛パーク 管理棟にて

意見交換会には、30人の市民の皆さんのご参加をいただき、さまざまなご意見を交換することができました。ご協力、本当にありがとうございました。

いて」の要旨説明を行いました。そして、参加者がA班からF班に分かれ、意見交換しました。

会場では、はじめに議会報告を行いました。第1常任委員会からは、総務部、地域振興部、都市環境部などの所管事務の調査についての報告、第2常任委員会からは、市民健康部、留萌市立病院、教育委員会所管事務の調査についての報告、平成30年度決算審査特別委員会からは、決算の結果から緊張感を持った財政運営が必要であると報告されました。

市民の皆さんから頂いたご意見は現在、議会として検討を進めています。結果については、本年度中に留萌市議会ホームページ(<http://www.e-rumoi.jp/gikai/index.html>)で公開予定です。

次に、第1・第2常任委員会の各委員長が意見交換テーマ「道の駅」「子育て支援につ



# 行政視察を行いました！

## 【第1常任委員会】

●視察日程 10月30日～11月1日

●視察先 ①青森県七戸町 ②秋田県

道の駅「しちのへ」は、新幹線「七戸十和田駅」前という立地を活かし、本年1月には重点道の駅に選定されており、道の駅登録制度開始当初から26年間、地域住民と行政、議会が地道に創り上げてきました。このため、留萌市議会では、留萌道の駅基本計画に参考とするため視察しました。開設当初は、何もなく広大な土地だったため、住民の理解も難しく賛同者が少なかったそうです。現在は約200団体が出店し、農家の収入増に繋がっているとのことです。「目的地」としての利用は難しく「ついで」を増やし、次の観光地への繋ぎとしての道の駅を目指していました。留萌市でも、住民と行政、議会がお互いに理解し合いながら最善の手段を検討したいと感じました。



▲道の駅「しちのへ」重点道の駅選定証授与式

「秋田プライウッド株式会社」は、留萌港からのトドマツ材の受け入れ先です。留萌港における道産原木利活用の参考とするため視察を行いました。秋田プライウッド株式会社は、国内産材の合板生産日本一を誇り、年間売上高270億円、社員数は約470人。留萌港からの取扱量は、年間3万㎡、留萌港のシェアは全道で25%、全国で4%。秋田プライウッドでは自社船も活用しているそうです。

第1常任委員会では、冬期間の留萌港からの原木の安定供給をはじめ、年間を通した原木供給の増加について、調査・研究の必要性があると感じました。



▲企業視察(秋田プライウッド株式会社)

## 【第2常任委員会】

●視察日程 10月15日～17日

●視察先 ①京都府木津川市 ②兵庫県高砂市

第2常任委員会では、待機児童の解消に向け、進んだ取り組みを行っている京都府木津川市、赤字の市民病院に対して議会が特別委員会を設置している兵庫県高砂市を視察しました。木津川市では、待機児童解消に向け、具体的な解消策を行うための基本的ルールとしての「待機児童の解消対策ガイドライン」を策定し、このルールに基づき待機児童の解消を図りました。民間活力を利用して保育所の開所や増築を行い、保育定員を大幅に増やし、待機児童を1年間で解消しました。保育士確保のために、働く環境を整備し、年に6回の見学会や「保育士再就職支援研修会」を実施しており、待機児童解消に向けた有効な取り組みだと感じました。



▲木津川市議会議場

高砂市では、医師不足が原因で赤字となっている問題を解決するために、さまざまな取り組みを行っていました。経営改善に向け、有識者による「市民病院あり方検討委員会」を設置し、病院の課題の対策を議論しています。高砂市議会は、市民病院の経営改善に提言をし、政策課題に取り組むために「市民病院経営改善対策委員会」を設置し、委員会議論を重ね、病院再生のための視察を行っています。



▲高砂市議会議事堂

今後は、これらの進んだ事例を参考とし、第2常任委員会で調査・研究を進めていきます。

## 第1常任委員会

11月19日の常任委員会では、12月の第4回定例会に向けた議案事項の確認と報告事項、情報提供事項の確認を行いました。

消費税率および地方消費税率が10月1日に10%へ引き上げられたことに伴い、コミュニティセンターや文化センターなどの使用料、し尿処理手数料などを改定。改定後の使用料等適用時期は、令和2

年4月からを予定しています。

【寺子屋・るもいっこ実施】  
子どもたちの基礎学力の向上や学びのきっかけづくりを目的に元塾講師や元学校教員などの協力をいただき「地域の学び舎」を開設。1回目13人、2回目19人が参加したとの報告を受けました。



## 第2常任委員会

第2常任委員会では、毎月40人前後の待機児童の推移を情報提供として確認しています。

待機児童解消対策として、「小規模保育所等整備事業」が補正予算として計上され、小規模保育事業所が12月2日に、ぶるも1階にオープンしたことにより、待機児童は39人が11月1日現在23人に減少しています。

【陳情審査報告】  
第2常任委員会に付託された「幼児教育・保育の無償化に伴う食料費の取扱いについて」の陳情は、5回に渡り慎重に審査した結果、「優先で取り組まなければならない待機児童の解消や、保育の全体的なバランス・公平性を鑑み趣旨採択」としました。



## 留萌南部三市町議会議員研修交流会を開催

### ●地域の現状を理解

9月4日、留萌南部三市町議会議員研修交流会を留萌産業会館小ホールで開催しました。

この研修交流会には留萌市議会14人、増毛町議会11人、小平町議会8人の議員が参加しました。

この会は、議員の研さん・情報交換を行うための場です。研修では、講師として北海道留萌振興局保健環境部・保健行政室長の大森英孝氏を迎え、講演「地域医療について」留萌区域地域医療構想を踏まえて」を受講しました。

退院後の在宅復帰を含めた切れ目のない医療の提供や現状の看護師不足への対応、望ましい病床数をまとめた地域医療構想について詳しく解説を受けました。

その後、それぞれの議会からテーマを説明し、情報交換を行いました。

留萌南部三市町議会議員研修交流会の電子化について、小平町議会から「町民懇談会の開催状況について」の各テーマが出されました。提案議会からの状況の説明の後、他の議会がテーマについて取り組みの様子を話し合い、情報を共有しました。留萌南部の3市町の議会が互いの議会活動について理解を深め合う、貴重な時間となりました。

今後も地域の発展のために、議員研修交流会を毎年続けていく予定です。



▲留萌南部三市町議会議員研修交流会

令和元年第4回定例会

一般質問と答弁



米倉 靖夫 無党派

市内には46の公園があり、そのうち22には遊具なく、空き地に近い状態になっている。

40年間がたつて遊具の老朽化や子どもたちの減少で昔の公園とはかけ離れたものとなっている。これから活用しようとする場所に集約し、市民が集まりやすい場所に力を注ぐべきでないか。

神居岩公園の遊具を整備しようとしているが場所が遠く不便である。船場公園につけるべきでないか。



▲空き地に近い状態の街区公園



戸水美保子 留萌公明党

さまざま意見や意見を聞くとともに、他の施設の状態をみて検討する。

風しんの予防接種について

市の予防接種の受診・接種の状況を伺いたい。事業所などへの呼び掛けは行っているのか。今般、厚生労働省から発表された追加的対策に対し、工夫は考えているか。



▲対象者に配布された風しん予防接種無料クーポン

9月末の数値だが、風しん抗体検査の受診、接種の数はまだ少ない。地元メディアも利用し、抗体検査受診の再勧奨を行っていく。また、市役所内でも受診を勧奨していく。

音楽合宿支援の考えは

地方創生の事業として、一般社団法人留萌青年会議所が取り組んでいる音楽合宿が大きな成果を上げている。継続して発展できるように、支援する考えはあるのか。市の財政を考えると、この事業に対し、「企業版ふるさと納税」の活用は考えられないか。

音楽合宿は地方創生の取り組みに資する事業であり、市民力を発揮できる継続的な取り組みとなるための環境づくりを積極的に支援したい。

国の動向を踏まえ、このほど制度が拡充される「企業版ふるさと納税制度」の活用可能性を検討したい。



つばめ 昌克 留萌公明党

公共施設の今後について

留萌市は、度重なる震災報道を受け、改めて防災・災害対策の中枢を担う庁舎機能の重要性や避難場所ともなる公共施設の耐震性を認識していると思ふ。市庁舎建替えに活用できる市町村役場機能緊急保全事業債は道北6市のうち4市が活用を予定している。来年度に実施設計に着手することが条件である事業債の活用について伺いたい。

事業債の活用については、まちづくりの視点や他都市の状況を参考にしても議論の時間がなく、大変厳しいと判断する。今後は、北海道市長会を通じ、事業債の延長を要請していく。



▲震度6強で倒壊の危険がある、市役所庁舎

道の駅について

11月20日に開催した、市民と議会の意見交換会において、「もう少し時間をかけた方がいい」など、来春に申請開業を目指すことに慎重な意見が多かったと感じる。一度立ち止まり、時間をかけて進めてみてはどうか。市長の見解を伺う。

高規格幹線道路の全面開通による効果を最大限に活用し、多額の投資を行わず、まずは登録申請した後、民間の力を借りながら、通年で運営できるようにチャレンジしたい。



村山ゆかり 留萌クラブ

JR留萌本線の行方

市長は、「次の一手を考えたい。しかし、JR留萌本線は、線であり点ではない。沿線として考えなければならぬ」と話している。沿線自治体で議

論が進まないのはなぜか。方針を伺いたい。

留萌と空知の文化の違いもある。石炭産業の時代や沿線に高校があった時代は交流があったが、現在は空知方面からの利用は、ほぼ皆無。存続させたいのであれば、まずは利用を願いたい。判断は、令和2年になると思うが、イコール廃線ということではない。

るもいプラザ閉鎖後の対策

るもいプラザの所有者からテナント事業者に対し、来年4月30日に閉鎖する方針が通知された。テナント会が存続を求める要望書提出の際、違う場所での賑わい創出できるか検討している



▲るもいプラザ内でのバス待合も多い。対策が必要

別の施設での開設の可能性などについては、商店街振興組合と商工会議所など関係者と協議している。「まちなか賑わい広場」は、現行のまま動かせるか検討している。バス停の移動



ちんだ 亮子 留萌公明党

見晴道路整備事業について

見晴道路整備事業が完成することにより、地域住民の避難路確保や通勤通学の利便性が図られる。現状の進捗よく状況と今後の見通しを知りたい。

令和2年度は、該当地区の用地補償や建物補償を継続する。見晴町地区から、野本町・千鳥町地区の交通不通区間において地山の切り土を先行し、野本町・千鳥町地区の盛り土区間に流用して土盤強化の促進などを行うと聞いている。



▲市内小学校での出前授業

留萌市環境政策としてクール地球温暖化防止対策としてクールチョイイス事業を3年継続しているが、その効果と今後の取り組みについて知



うしろ 雪子 無党派

るもいプラザの存続について

現在のるもいプラザの機能を旧フカセに代替施設の候補としてお考えのようだが、4月末のタイムリミットまでのスケジュールがタイト過ぎる。

市は、早急に商工会議所や商店街連合会、テナント会と一同に会合し、所有者に1年程の猶予をもらい、中心市街地のあり方に付いて真剣に練り直す必要があると考えるが、市長の考えを伺いたい。

管理会社からは、1年ごとに赤字がかさむとの申し入れであり、延期



▲4月末に閉鎖予定のるもいプラザ

これ以降だと管理状況も悪化するため、他の場所を探し協議を進めていきたい。

来年度の道の駅登録に向けて予算の概要もなく、事業内容も曖昧な上、指定管理者と市直営の役割もはっきりと決まっていない状況。道の駅登録は時期尚早だと考える。

明確なビジョンと事業内容、予算の概要ができてから登録を図るべきだと考えるが市長の考えを伺いたい。

高規格幹線道路の完成に伴い、ある程度同時期に留萌の道の駅があり、休憩スペースがあると利用者に伝えていくことで相乗効果に期待している。

# こんなことが決まりました

令和元年 第4回定例会  
12月3日～11日

令和元年（2019年）第4回定例会が9日間の会期で開催され、報告3件、議案25件、意見書案5件、陳情1件などを審議しました。

## 【報告】

専決処分報告について ほか2件 ..... 了

## 【議案】

- 令和元年度留萌市一般会計補正予算（第4号）について
  - 令和元年度留萌市水道事業会計補正予算（第1号）について
  - 令和元年度留萌市病院事業会計補正予算（第1号）について
  - 留萌市港南コミュニティセンターの指定管理者の指定について
  - 留萌市船場公園の指定管理者の指定について
  - 留萌市一般職員給与条例等の一部を改正する条例制定について
  - 留萌市税条例の一部を改正する条例制定について
  - 留萌市幼児療育通園センター設置条例の全部改正について
  - 留萌市都市公園条例等の一部を改正する条例制定について
  - 留萌市固定資産評価審査委員会委員の選任について
- ほか13件 ..... 原案可決  
ほか2件 ..... 同意

## 【意見書案】

- 新たな過疎対策法の制定に関する意見書
  - スマート農業の実現による競争力強化の加速を求める意見書
  - 令和元年台風19号等からの復旧・復興に向けた対策を求める意見書
- ほか2件 ..... 原案可決

## 【陳情】

幼児教育・保育の無償化に伴う食材料費（副食費）取扱いについての陳情 ..... 趣旨採択

## 編集後記

新しい年が始まりました。昨年は、暖冬の影響で12月になっても降雪が少なく安心でしたが、インフルエンザ予防のために市役所庁舎内では、マスク姿の職員が多く見受けられました。

11月20日に開催した「市民と議会の意見交換会」では、「道の駅」と「子育て支援について」をテーマに多くの皆様のご意見を直接聞くことができ、今後の議会活動の参考となりました。

12月定例会では、8人の議員が一般質問に立ち、JRや道の駅、るもいプラザ閉店など重要な課題について、活発な質疑が行われました。

「留萌市議会だより」の作成に関わり、8カ月になりますが、市民と議会をつなぐ重要なツールですので、これからも頑張ります。（博）

## 各組合議会からの報告

### 留萌消防組合議会

令和2年留萌消防団出初式が1月7日、留萌消防本部で行われ、留萌消防組合議員はじめ留萌市議会議員13人が出席、表彰式では、燕昌克消防組合議長が祝辞を述べました。出初式で部隊観閲式に続いて行われた北海道知事表彰、道消防協会会長表彰、留萌消防団長表彰では、出動状況などが評価される精勤章が71人の団員に贈られ、栄誉を称えました。



### 留萌南部衛生組合議会

12月16日に開催した令和元年留萌南部衛生組合議会第2回臨時会では「令和元年度留萌南部衛生組合補正予算（第2号）」の1件を審議し、可決しました。歳入・歳出をそれぞれ3,010万5千円を減額し、7億7,965万2千円としました。また、12月4日には「令和元年第5回議員協議会」を開催し、最終処分施設の現状報告を受けました。



こぬま きよみ  
無党派

質問 不登校児童生徒に対する施策について

文科省は、不登校児童生徒に多様な教育機会の確保が必要であるとして、行政が主体的に教育支援センターの整備充実を進めていくことを推奨している。そこで、留萌市として、教育支援センターをつくっていく考えがないか伺う。

【答弁】文科省の通知では、不登校児童生徒への教育支援センターの整備指針も示され、有効な施策と認識している。場所と人材の確保が厳しいが、留萌市でもできる範囲で設置したいという考えである。

質問 JR留萌本線について  
国民の足であり、観光立国や物流の大事な基盤であり、環境問題にも貢献できる交通機関としての役割を持っているこの大事な鉄路の危機であるという。留萌本線存続のためにやるべきことは、北海道議会や道内の首長たちと手を結び、国に支援を求めていくように働きかけることであると思うが考えを伺う。



▲KAZUMOちゃんが出迎える留萌駅



かいとう よしのり  
萌芽クラブ

質問 地域の若者に必要な高等教育の高校生が卒業した後、社会に出たその新社会人たちの早期離職が社会問題となっている。

高校新卒で就職した若者の約半数が3年以内に辞めているという現状を留萌の若者の課題として置き換えると、義務教育を卒業する中学生に、社会への一歩ともいえるべき高等教育を幅広く選択できる環境づくりが必要と考えられる。

市民の皆さま、明けましておめでとうございます。市議会では、「わかりやすく・開かれた議会」の実現のため、本会議（一般質問）をFMもえるでの放送やインターネットによる中継での公開、および「市民と議会の意見交換会」を開催しております。このような取り組みによって、より多くの民意を市政に反映していきたいと思っております。

また、市への監視機能を発揮するとともに、政策の立案などを実現していくため、議会運営の創意工夫や議員の資質の向上など、市民の負託に応えられるよう、議員一同決意を新たにしているところであります。本年が、皆さまにとりまして幸せ多き年となりますよう、心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

留萌市議会議長 小野 敏 雄



しているのか」「中学校とどのような連携が必要なのか」について、教育長の考えをお聞きする。

【答弁】留萌高校は普通科と職業学科が併設されており、特性を生かし分野を限定しない広範囲な知識や経験を学ぶ環境がある。電気・建築科や情報ビジネス科では、資格取得についても積極的な取り組みが実践されている。

留萌高校の教育課程の理解と、総合学科などの北海道にある特徴的な高校の取り組みの周知を図る中で、より専門的な分野の必要性について、中学生



▲留萌高校で専門分野を学ぶ生徒たち

や保護者の意向を調査していきたいと考えている。